

※父 大岡信に献ぐ

挽歌 ―父を送る―

父 大岡信、二〇一七年卯月五日、齡八十六にして逝く。折しも、好みし西行のうた「願はくは花のもとにて春死なむその如月の望月のころ」に倣ふかのやうな、桜花に満ちた朝のこと。あな、あはれ

願はくは明かく照らせよ花ふぶきそは父ひとりあゆみ初む道

なつかしき雫となりてかへりませまことのふるさと言の葉の海

たまきはるいのち捧げて書き継ぎしやまことごととなりまさる父

をりをりのうたを枝折りに置きたまふ身罷りし人はや見えねども

武家の裔として生れたる長男を、うた人なりける祖父大岡博、「我が

家の太郎」と呼び習はしたり

もののふの家に生まれし太郎なりひたみちにゆく黄泉比良坂